



研究室紹介

社会学部 心理学科

YOKUDA Iwao
與久田 巖 教授

沖縄県生まれ。琉球大学法文学部社会学科教育・心理専攻卒業。関西大学大学院社会学研究科博士後期課程社会心理学専攻単位修得後退学。児童相談所心理判定員、短大・大学・大学院非常勤講師、大阪夕陽丘学園短期大学助教、准教授、教授などを経て2021年本学着任。着任後の論文に「入学動機アンケートにみる心理学科の特徴(1)量的データの結果から」(共著)(奈良大学紀要)2023年ほかがある。

心理学を志したきっかけ

浪人時に受けた模擬試験で雷に打たれたような衝撃を受けた経験が原点です。何かよくわからないけれど、自分のことを言い当てられたような気がして、誰が書いたのだろうと調べてみると心理学者でした。自分でもよくわかっていない自分。そういった心を研究している心理学を学びたい！それが心理学を志したきっかけでした。出典本を買って読んでみたものの、当時の私には難解で、大学入学後、いつのまにか忘れていました。修士課程のある日、付箋をつけた出典部分を読み返してみると、スラスラ理解できると同時に、浪人時より、多様なもののみかた、考え方、行動ができるようになっていくことに気づきました。

奈良大学心理学科で学ぶ

心理学では、個人が生きるなかで編みあげてきた経験則や先入観が、果たして本当にそうなのか、実際に証拠を集めて検証していきます。そのことを通して、客観的で科学的なもののみかた、考え方、行動ができるようになります。

奈良大学心理学科では、心理学のなかでも社会心理学と臨床心理学の2本柱で学びを展開しています。将来、公認心理師(国家資格)が取得可能なカリキュラム編成となっており、心理学について幅広く学ぶことができます。多様なもののみかた、考え方、行動ができるようになるきっかけとして奈良大学心理学科で学び、人生に活用してみたいかがでしょうか。

ゼミ生からみた先生(3年生)



難しい内容を分かりやすく教えて下さるので、いつも助かっています！またユーモアもある面白い先生です！

森山 和馬さん
(第一学院高等学校出身)

先生ご自身の経験から、学生に歩み寄りながら近い距離感をもつことで楽しく授業をしてくれます！その心持が嬉しいです！

奥山 奏楽さん
(第一学院高等学校出身)

心理学に関する様々な知識を分かりやすく身につけることができ、楽しんで学んでいます！親しみやすい先生であることも私の人生における幸運です！！

森 一馬さん
(奈良県立五條高等学校出身)

ゼミ内では、先生の面白さが場の雰囲気や和ませてくれています。授業内でも説明が分かりやすく優しい先生です。

吉永 拓哉さん
(大分県立高等学校出身)

分からないことは基本、何でも答えてくれて、すごく助けてくれます。気軽に喋れて、とても優しく面白い先生です。

山本 勇大さん
(京都府立木津高等学校出身)

ゼミで交流を深める機会があるので他のゼミ生と仲良くなりやすく、楽しくゼミに参加することができます。

新垣 将哉さん
(関西中央高等学校出身)

親しみがあるだけでなく、学生の興味ある分野にとても親身に向き合ってください。研究室を訪問すると質問や話を聴くだけでなくオススメの本を紹介して下さるなど、手厚くサポートして下さる頼もしい先生です。

竹村 くみ子さん
(天理高等学校出身)

先生が話しやすい環境を作ってくれているおかげで疑問点など聞きやすく、論文を読む力や要約する力も身につけてとても心地良いゼミです！

吉川 太矩哉さん
(奈良県立大和広陵高等学校出身)

ならぶ Vol.194 ●発行:令和6年1月 ●発行:奈良大学 〒631-8502 奈良市山陵町1500 TEL. 0742-44-1251(代) URL <https://www.nara-u.ac.jp/> E-mail kouhou@oogakunara-u.ac.jp ●編集:奈良大学広報室

ならぶ

Na Love

Nara University Bulletin Vol.194

奈良大学 NARA UNIVERSITY



文学部
国文学科

体験型授業「天平衣装をまなぶ」



10月3日に古代衣装研究家・山口千代子先生をお招きし、体験型授業が行われました。山口先生は時代考証を取り入れつつ、リサイクル着物や帯などをリメイクされ洋服を着る感覚で古代衣装を考案、創作されています。

正倉院宝物から復元された天平衣装のファッションショーとともに、山口先生の復元過程の話から、万葉集の世界と服飾文化を学びました。

21人の学生と大西英人教授、岸江信介教授、山田昇平講師が飛鳥時代の藤原京の時代、高松塚古墳の壁画にある衣装や、朝廷の女官の衣装など、当時の色とりどりの衣装に身を包み、参加者は山口先生のそれぞれの衣装とその時代背景について、また奈良時代の衣装が現代の服装に通じる「洋服」の時代であったという解説を聞きながら興味深そうに授業を受けていました。



参加学生コメント

文学部国文学科 3年生 池住 虹海 さん
(静岡県立焼津中央高等学校出身)

私は、奈良時代の女性の中で最も高貴な身分である皇后の衣装を着させていただきました。実際に着ると、事前に写真で拝見した時よりも豪華で迫力のあったことを覚えています。また、万葉集の歌だけでは想像することが難しかった「袖振り」の表現がどのような女性の姿を詠んだのかを実感でき、実際に奈良時代にタイムスリップした感覚になりました。奈良ならではの貴重な体験は私の中で素敵な思い出になりました。



左から池住さん、大西教授、山田講師、岸江教授

Contents

1 巻頭特集 授業紹介

9 トピックス

14 インフォメーション

8 通信教育部生便り

12 クローズアップ

15 研究室紹介
社会学部 心理学科 與久田 巖 教授

文学部
史学科

山添村の古文書調査



9月11日、12日に史学科の学生19名と教員5名による山添村の古文書調査が実施されました。17回目となる今回の調査は、山添村生涯学習施設・東豊館にて上津村中西家文書の整理を行いました。上津村の中西家は江戸時代に庄屋を務めておられた家で、大坂夏の陣に関する史料など、2000点以上の古文書が確認され、今回の調査では602点の調査カードをとることができました。参加者は1～3年生で、初めてホンモノの史料に触れた学生がほとんどでした。昨年9月の調査にも参加した学生からは、「去年は地図など大きな史料が多かったけれど、今回は手紙や産業組合の認可状など、生活に密着した史料が多く、実生活がイメージできて興味深かったです。」との感想が聞かれました。

参加学生コメント

初めて調査に
参加しました！



文学部史学科 1年生 川合 瑞穂 さん
(三重県立木本高等学校出身)

今回初めて参加し、まだ一回生で授業でも沢山くずし字を読んでいる訳ではないので、読み取ることが難しかったです。しかし、先生方に教えて頂いて分かる字が増え、「さっきこれ出てきたよね！」と友達と話しながら、自分が会ったこともない人達が残した文章を読み取れるようになるのが嬉しかったです。また機会があれば是非参加したいです。



法隆寺の駐車場の植え込みが 実は「古墳」でした！



聖徳宗総本山法隆寺(奈良県斑鳩町)の参道脇にある観光客用バス駐車場の一角に、直径約8.5メートルの円形の植え込みがあり、実はここに古墳が埋もれていた、ということが明らかになりました。

この大発見は、本学文化財学科の豊島直博教授と学生たちが斑鳩町教育委員会と共同で発掘調査を行ったことによるもので、まず2022年春に行われた調査で古墳時代の土器や石室の一部とみられる石材が見つかり、ここが古墳であるということが確認されました。

そして本学では3回目になる今回の調査で横穴式石室が確認され、6世紀後半に造られた円墳であることが判明しました。

この古墳は見つかった土器の年代から、同じ斑鳩町内にある有名な藤ノ木古墳よりも古いものであることが分かり、豊島教授は「最初は半信半疑でしたが、ここが本物の古墳だと分かって驚きました。」と話していました。

参加学生コメント

文学部文化財学科 4年生
水川 慶紀 さん
(岡山県立岡山一宮高等学校出身)

初期から調査に参加していましたが、古墳はツツジの木がびっしりと植わり、日本庭園にみられる築山の様な状態でした。古墳として認知はされていましたが、横穴式石室の石が露出するまでは信じられませんでした。2023年の夏期休業期間中、埋葬施設の調査をする機会に恵まれ、石室内部を掘り進めることになりました。皆で酷暑と格闘しながら慎重に掘っていくと多量の須恵器や玉類、大刀、馬具といった豊富な副葬品が姿を現しました。全てが同時に出てきたわけではないため、調査中は何度も頭を抱えた記憶があります。ニュースでも「駐車場の中から古墳見つかる」と話題になりましたが、私たち調査チームも驚きと発見の連続でした。



Again(アゲイン)

「若者の生きる意欲を支えるシンポジウム」を開催しました。

- 10月28日、心理学科の太田仁教授を中心に、幼少期の性被害、虐待、ハラスメントなどトラウマを抱える若者の支援について議論することを目的に「若者の生きる意欲を支えるシンポジウム」が開催されました。また同日に学生ゲートキーパーグループ「Again」が若者のPTSD傾向と生きづらさに関する実証研究についてポスター発表をしました。ゲートキーパーとは自殺につながるような悩みを持つ人に声をかけ、話を聞き必要な支援につなげる見守る人のことで、本学心理学科の学生たちが2022年4月より「Again」を立ち上げ、大学生を対象とした調査をもとに自殺予防の活動を続けています。シンポジウムの前にはグループに分かれポスター発表を行い、これまでの実証研究の結果を発表しました。



参加学生コメント

社会学部心理学科 4年生 **佐々木 稜 さん**
(大分県立大分工業高等学校出身)

Againの活動を通して行ったこれまでの調査や発表とそれに対するフィードバックによって若者の生き苦しさという問題に身を持って触れてきました。このシンポジウムでは先生方の貴重な講演を聴講することで、大学生視点だけではなく社会全体としての問題へのアプローチ方法やそのヒントを得ることが出来たと実感しており、大変貴重な経験となりました。今後のゲートキーパーとしての行動に活かしていきたいと思うと同時に、このような機会を設けて下さった方々に感謝申し上げます。



参加学生コメント

社会学部心理学科 3年生 **益原 陸 さん**
(広島工業大学高等学校出身)

今回のAgainの活動において、3回生は過去の傷つき体験による自己形成、4回生は自殺予防への取り組みをテーマにしたパネルディスカッションを展開させて頂きました。来場者との質疑応答では、各班の調査内容を主としながら自身の意見も求められる場面があり、心理学という「自己」と「他者」を考える学術的側面においてとても有意義な時間でした。また、講演を行って下さった学外の先生方からご教授頂いた多方面における新しい知識を、今後の調査研究に活かしたいと考えています。





地理学科では3年ぶりに海外巡検が開催されました。今年度は木村圭司教授、芝田篤紀講師が引率され、8月27日～9月4日の9日間でエジプトのカイロを訪問しました。

大学院生2名、学部学生13名(地理学科11名・文化財学科2名)が参加し、本やテレビでしか見たことのないピラミッドやスフィンクスを見学し、また一般のツアーでは行くことができない日本大使館やJICA事務所を訪れ、日本とエジプトの関わりなどについて学習しました。考古学博物館では、およそ3300年前(日本では縄文時代)に作成された有名なツタンカーメンのマスクなどを見学し、また文明博物館ではエジプト史で学んだ有名なファラオのミイラが何体も陳列されている様子に、参加者は圧倒されていました。また、スエズ運河に行く途中では、ナイルデルタのセンターピボット農業を見学し、稲作農家に聞き取りをし、ナイル川の水が有効利用されていることを学びました。



かつてのエジプトの首都、メンフィスにあるラムセス2世の巨像



在エジプト日本大使館を見学



ムハンマド・アリー・モスクの外観



アフリカ大陸とアジア大陸を分けるスエズ運河



センターピボット農場

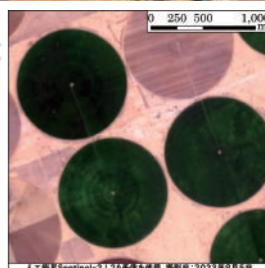


行程

- 1日目: 関西国際空港出発(ドバイ経由)
- 2日目: カイロ空港到着、JICA事務所で学ぶ
- 3日目: クフ王のピラミッド(中に入る)、スフィンクス見学
- 4日目: 日本大使館訪問、カイロ市内のリサイクル村見学、現地のスーパーマーケットで調査
- 5日目: 乾燥地のセンターピボット畑作地とナイルデルタの水田で調査、スエズ運河見学
- 6日目: 考古学博物館と文明博物館見学、ムハンマド・アリー・モスク見学、現地名物「コシャリ」を味わう
- 7日目: ダハシュール(赤いピラミッド、屈折ピラミッド)、メンフィス(野外博物館)、サッカラ(階段ピラミッド)見学
- 8日目: 自由行動、カイロ空港出発(ドバイ経由)
- 9日目: 関西国際空港到着、解散



とれたてのピーナッツ



人工衛星から見たセンターピボット



インスタ エジプト動画(前編)



インスタ エジプト動画(後編)

参加学生コメント

文学部地理学科 4年生 長壁 志門 さん
(高崎経済大学附属高等学校出身)

エジプト巡検では、自然環境や文化的建造物が日本と大きく異なり深く印象に残りました。ナイル川から離れた水資源に限りがある場所で行われていたセンターピボット農場では、日本ではなかなか見られないような大規模なピーナッツ畑を見学できました。普通のツアー旅行ではいかならないような場所で実際に水を散布している様子も見せていただき、とても興味深かったです。また、大規模なモスクも見学しました。日本に比べ宗教が身近なエジプトではとても大きなモスクがいくつもありそこで実際に礼拝をしている様子も見学できました。普段地図や資料でしか見ることのできない海外の様子を直に感じられ、とても良い刺激を受けました。



参加学生コメント

文学部文化財学科 3年生 中村 日和 さん
(玉名女子高等学校出身)

文化財学科で学芸員資格取得に向けて勉強中で、ピラミッドやエジプトの文化財に興味があり海外研修に参加しました。最初に訪れた博物館では、本当にたくさんの数千年前の石像や木簡が無造作に、そして誰でも触られる状態で置かれていてとても驚きました。しかし2か所目の博物館では歴代の王族のミイラなどが日本以上に厳重に陳列されており、それらの展示方法について文化財学科の後輩といろいろと考察できました。一方、地理学科の先生方と学生がピーナッツ畑や水田を夢中で見学されている様子を見て、私たち文化財学科の学生との視点や興味を持つ対象の大きな違いに気が付き、とても新鮮に感じました。今回の海外研修を通じて多様なものの見方を知ることができてよかったです。



プロジェクト型学習 実社会での経験を大学での学びにつなげる



総合社会学科の2年生の必修科目「社会体験実習」では、社会で生き抜くさまざまな「力」を養うため、企業やNPO法人等と連携し、プロジェクト型学習(PBL:Project Based Learning)を行っています。この授業を通じて実社会での経験を大学での学びにつなげる取り組みを実施しています。

今年度はその実習の一環でならまの土産物店「絵図屋」(奈良市餅飯殿町)とコラボレーションし、学生たちが企画、制作したグッズを11月2日、3日の大学祭(青垣祭)で販売しました。商品は、紙を挟むと鹿の色が変わるクリアファイル、ハートの鹿の絵をあしらったサコッシュ、レコードのイラストに大和言葉を添えたシールの3種類です。

学生たちは実習担当の倉光巖教授の指導の下、「企画～仕入～価値の付加～販売～(回収)」という営業循環を体験しました。

PBLの 研修先

- 「ヴァンパイア株式会社」: AIやSNSを活用したマーケティング活動
- 「共同精版印刷株式会社」: 奈良の観光情報サイト「NARABURA」での記事作成
- 「社会福祉法人あゆみの会」: 知的障害のある方々と共に生きる社会を考える
- 「NPO法人スペシャルオリンピックス日本・奈良」: 知的障害のある方々のスポーツ活動について情報発信
- 「K-Pool」: デザインやアート、フリーマーケットの企画や運営を通してまちづくり活動の実践
- 「株式会社パンピシャス奈良」: プロスポーツとしてのバスケットボールの魅力発信と地域貢献
- 「株式会社奈良クラブ」: 奈良クラブのホームゲームを盛り上げる活動と地域貢献
- 「絵図屋(株式会社明新社)」: 土産店での商品開発や店舗経営の実践

参加学生コメント

社会学部総合社会学科 2年生
多田 喜一 さん
(奈良県立高取国際高等学校出身)



私は社会体験実習で商品の企画販売をしました。この実習で私は商品が私たちの手に届くまでの流れと物づくりの難しさを学ぶことができました。また、大学祭で商品を販売する際、商品の展示方法や接客の仕方、商品広告なども学ぶことができました。この商品企画販売の経験は数年後社会に出て行く私たちにとって、とても有益なものだと思います。このような貴重な経験を積むことができたのは、絵図屋さんと先生がいてくださったからであり感謝の気持ちでいっぱいです。ありがとうございました。

「楽しく学ぶ」そこに生涯学習の醍醐味を感じています。

在学学生 船曳 徹 さん



定年退職を2年後に控え、雇用延長はあるものの、仕事以外に何か目的を持って取り組みたいという思いから、自分の好きなもの、また、継続できることは何かと考えました。それは、神社・仏閣・城郭であり、その由緒や歴史について学びたいと思い切って、2020年4月に1年次入学しました。

なお、働きながらの学習なので、毎日夜遅くまで学習するスタイルは続かないと思います(好きなお酒も飲めないし)、早寝・早起きを心掛け、早朝にテキストをしっかりと読んで、休日はレポート作成のための準備に時間を充てることにしました。

一番苦労したのがテキスト科目の「人間論Ⅳ」です。レポート再提出の上、科目修得試験は4回目にしてようやく及第点をいただきました。しかしこのことは、テキストに述べられていることが最新の情報なのか、制度改正されていないかを調べるきっかけにもなり、また、レポートの書き方を学ぶことができ、学習効果も上がっています。

3年次のコロナ禍での在宅特別スクーリングにおいて、一番印象深かったのは、土平先生の「歴史地理学」です。古地図と古文書から読み取れるもの、その時代背景とを組み合わせることで、古地図だけでは理解できないものも見えてくることを学びました。そのことにより、博物館での展示資料の見方も変わってきました。卷子であれば、絵と一緒に書かれている文書を原文で読みます。読めない文字があれば、楷書(キャプチャー)を見て、理解できたか、最後に解説文を読んで確認しています。

「学び」は辛く苦しいものではなく「楽しい」ものだということを、奈良大学で教わりました。通信教育部事務室の皆さんのサポートを得ながら、有意義な生涯学習となるようこれからも楽しく学んでいきたいと思っています。

通信教育部生
便り



学びの日々を誇りに、
仕事に学業に励んでまいります。

卒業生 西村 和美 さん



2023年9月、法隆寺の駐車場の植え込みが、実は古墳だったという、奈良大学の発掘調査のニュースが世間を賑わせていた頃…実は私も、別の発掘調査に参加していました。北海道オホーツク海に臨む北見市常呂町の丘陵で、東京大学文学部考古学専攻の学生達と一緒に、堅穴住居跡に移植ゴテを振るっていたのです。

私は、2020年4月に、奈良大学通信教育部で学び始めました。入学式を夫と楽しみにしていたのですが、コロナ禍で中止。その後2年間、スクーリングが一度も現地で開講されることなく、初めて奈良大学を訪れたのは、卒業式の日となってしまいました。

あっけなく終わってしまった学びの日々…装飾古墳をテーマに卒業論文を書き、すっかり考古学に魅せられた私は、2022年夏、東京大学大学院の修士課程基礎文化研究専攻(考古学)を受験、社会人としては唯一の合格者となり、2023年4月から本郷キャンパスで学生生活を送っています。

とはいえ、普段は都内の大使館で広報官として報道レポートを作成、大使や外交官のスケジュール調整や、大使館主催の行事を運営する日々。果たして仕事も大学も、ちゃんとうまく務まるのか、という不安はありました。

今のところ、なんとかこなっています。授業は夕方以降にしか出られませんが、夏の集中講義と発掘調査には溜まっていた有給休暇を消化し、奈良大学博物館学芸員資格課程の実習にも、去年と今年、全日程参加できて、親しくなったお友達と毎日楽しく過ごせました。

そうそう！この夏、東大の「博物館学実習B」で、「優上」という成績をいただきました。これは間違いなく、奈良大学のおかげです！これからも、奈良大学での学びの日々を誇りに、仕事に学業に励んでまいります。



トピックス

7月

July

1日 図書館企画展 「狩野派 能絵 二十三枚」



7月1日～11月11日に図書館企画展「狩野派 能絵 二十三枚」を開催しました。文学部国文学科の三宅晶子教授が企画し、本学図書館所蔵の能の一場面が描かれた作品23点と、それと同種の構図と思われる「能絵鑑」(法政大学能楽研究所蔵)などにある作品の写真も併せて展示されました。



7日

交換留学生に向け 七夕イベントを実施



中国、韓国からの留学生に日本の伝統行事を楽しんでもらうため、「七夕のイベント」を実施し、今津学長、島本副学長、国際交流委員の教員らと昼食を楽しみました。同日に奈良文化論の授業の一環で、講堂で雅楽研究会による雅楽演奏が行われ、留学生たち6人は演奏を聴いた後、雅楽演奏を体験し、夕方には茶道研究会によるお茶会に参加して茶道の作法を学びました。



8月

August

8日 奈良大学学校教員研修支援 オープン講座を実施

8月8日、9日に奈良県近隣の中学校社会科及び高校地歴の教員を対象に、地理授業でのGIS(地理情報システム)の導入と実習を目的とした講座が、文学部地理学科の木村圭司教授、酒井高正教授によって行われました。コロナ禍により4年ぶりの対面実施となった今回は、2日間で54人の教員が、近畿圏はもとより東京、長野、岡山などの遠方からも参加されました。



9月

September

17日 「教育のつどい」開催

本学と奈良大学後援会の共催による「教育のつどい」を開催しました。

9月17日の東京をはじめとし、福岡(9月24日)、静岡(10月1日)、金沢(10月8日)、奈良(10月9日)、高松(10月15日)の6会場で行いました。当日は本学教員による講演、就職関連の説明後、食事会や個別懇談を実施し、たくさんの在学生のご家族にご参加いただきました。



10月

1日

岩崎教授と生物研究会が 春日山原始林にて 水生動物の調査を実施



文学部地理学科岩崎敬二教授と、生物研究会のメンバーが世界文化遺産である春日山原始林に流れる水谷川で水生動物の調査に取り組

みました。文化庁、奈良県奈良公園事務所、春日大社から特別な許可を得て衛生管理を徹底した上で実施しました。採集したヘビトンボ類の幼虫などは肉眼で確認できないため、後日実験室で顕微鏡を使つての調査や同定作業を行いました。



2日

奈良大学博物館 『富山市・長松山本法寺蔵 「法華経曼荼羅図」の世界II ―描かれたものがたり―』 開催



10月2日～12月9日に富山市・長松山本法寺蔵「法華経曼荼羅図」(重要文化財)の高精細画像の原寸大複製7点と、解説パネルでの展示が文

化財学科原口志津子教授によって行われました。法華経の内容だけではなく、経典にはない龍の大激闘などの仏教のものがたりが描き込まれている点が注目を集めました。

27日

現代社会講座「プロスポーツが つなぐ奈良のまちづくり」開催



10月27日、奈良公園バスターミナルレクチャーホールにおいて、「プロスポーツがつなぐ奈良のまちづくり」と題した奈良大学現代社会講座を開催しました。

本学の島本太香子副学長の挨拶の後、総合社会学科中原洪二郎教授が司会を務め、サッカーのプロチーム「奈良クラブ」の浜田満社長とバスケットボールのプロチーム「バンビシャス奈良」の加藤真治代表取締役、そして総合社会学科倉光厳教授の講演が行われました。この後、地域活性化においてプロスポーツが存在することの意義や大学に期待される役割について4人によりディスカッションが行われ、大いに盛り上がりました。

11月 November

1日 文化財学科の学生が「一日文化財保安官」に



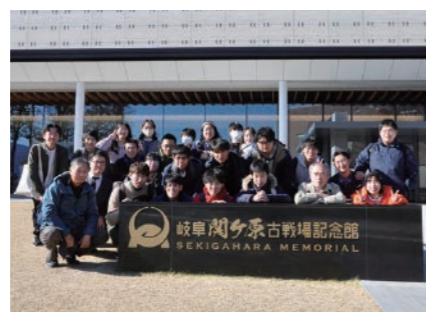
文化財学科3年生の豊田紗彩さんと中村日和さんが、奈良県警察本部から委嘱された「一日文化財保安官」として文化財防犯啓発活動を行いました。毎年、本学文化財学科の学生が「一日文化財保安官」として、全国でただ一人の「文化財保安官」とともに、県内の文化財を保有する寺社をパトロールし、文化財防犯を広める活動を行っています。

9年目となる今年は、協力依頼を受けた文化財学科の魚島純一教授、豊田さん、中村さんが奈良県警察本部で委嘱式に出席後、警察官の制服に身を包み、新薬師寺と十輪院を訪れ、防犯対策状況の聞き取りなどを

行いました。



26日 史学科教員が関ヶ原へのバスツアーを開催



11月26日史学科の学外研修で関ヶ原古戦場を訪れました。外岡慎一郎教授、河内将芳教授、川本正知教授、山崎岳教授の引率で、22人の学生が参加しました。最近オープンした岐阜関ヶ原古戦場記念館で、武将たちの書状や屏風絵などの展示のほか、映像と音響で当時の戦場を追体験できるシアターを見学し、錦秋に染まる関ヶ原で外岡教授や河内教授の解説を聞きながら贅沢な一日を満喫しました。

12月 December

4日 万葉集の「超訳」作家佐々木良氏による特別公開講義

12月4日、国文学科・鈴木喬准教授が企画した、万葉集を現代の奈良弁で訳した著書「愛するよりも愛されたい」を出版された作家・佐々木良氏による特別公開講義を本学令和館で行いました。

佐々木氏は「万葉集を訳すること、超訳を出版すること」をテーマに、作品づくりの動機やことば集めの方法、また社会的意義などについて、ときにはユーモアを交えて解説し、学生たちは熱心に聞き入っていました。

講義後は佐々木氏と鈴木准教授による対談、また学生たちとの座談会も開催されました。



■ クローズアップ 「第17回 全国高校生歴史フォーラム」



奈良大学と奈良県は、全国の高校生に、自ら設定した課題について調べ、考察し、探究していく研究の楽しさを実感してもらうよう、全国高校生歴史フォーラムを開催しています。

今年度は「歴史や文化、地理、文化財、文学、人物、社会」をテーマとし、67校89編のレポートから、優秀賞5編、佳作5編が選ばれました。11月25日には本学令和館で優秀賞受賞者の研究発表会があり、学長賞・知事賞を決定し、表彰式が行われました。



優秀賞受賞者のみなさん

全国高校生歴史フォーラムのHPへはこちらより



開催後の奈良観光の様子

審査結果

優秀賞・学長賞

昌平中学・高等学校(埼玉県) 馬塚敦也

「高野の施餓鬼」信仰の広がりとその起源～近隣都県の市区町村史から探る～



優秀賞・知事賞

足柄高等学校(神奈川県) 神奈川県立歴史研究部 秋山七海

現代に伝わった人形芝居 一班目人形芝居の歴史



優秀賞

川口北高等学校(埼玉県) 大津正彦

川口市の縄文人は泥炭から土器を作ったのか

足柄高等学校(神奈川県) 神奈川県立歴史研究部 米澤槍

関東大震災下の箱根地域の被害と復旧 一残された史料・石碑から読み解く

関高等学校(岐阜県) 関高等学校地域研究部

杉浦良太郎 鈴木遥斗 梅村颯太郎 酒向達也

地下軍需工場建設と本土決戦準備 ～東海軍管区の本土決戦構想を探る～

佳作

逗子開成高等学校(神奈川県) 高階賢司

新資料から読み解く鎌倉食用蛙養殖場

奈良女子大学附属中等教育学校(奈良県) 横内清嵩

なぜ巨大古墳の造営地は大阪に移るのか? 一墳丘築造企画論から考える

青谷高等学校(鳥取県) 青谷学Ⅱ(文学歴史コース)

東地美咲 桐本愛夏 山田唯加 濱本叶愛 林原叶将 伊井大希

青谷上寺地遺跡水田復元の試み(1)

一弥生時代の水田から学ぶ持続可能な水田へのアプローチ

吉崎高等学校(長崎県) 東アジア・中国語コース 加藤紅葉

吉崎における神棚文化について

吉崎高等学校(長崎県) 東アジア歴史・中国語コース歴史学専攻

武井慎之介

吉崎勝本城跡の本丸虎口に関する研究

■ クローズアップ 「青垣祭」

11月2日、11月3日に第54回青垣祭を開催しました。
 今年は4年ぶりに青垣祭が制限なしで開催されるため、「制限(リミッター)解除！」をテーマとし、コロナ前と同様に模擬店やこども遊園地、野菜市等も開催され、一般の方も多数来校されました。

青垣祭実行委員会 委員長/文学部文化財学科 3年生
岸 勇介 さん (徳島県立城北高等学校 卒業)



老若男女問わず、来てくださった皆さんが笑顔で帰る姿を見ることができて、本当に嬉しかったです。
 青垣祭を開催するにあたり、様々な苦悩や困難がありましたが、互いに励まし合い、支え合った仲間には、感謝しかありません。
 今後の青垣祭は、さらにパワーアップした学祭になるので、ぜひ楽しみにしてください。



Instagramで
公開中！
是非ご覧ください！



■ インフォメーション

■ 近刊紹介 ～本学教員の著書～

- ◆ **怪異と妖怪のメディア史 情報社会としての近世**
 文学部史学科・教授 村上紀夫 著、創元社 2023年9月刊行
- ◆ **飛鳥・藤原京と古代国家形成**
 文学部文化財学科・准教授 相原嘉之 著、吉川弘文館 2023年11月刊行
- ◆ **シリーズ 古代史をひらくⅡ 『古代人の一生——老若男女の暮らしと生業』**
 文学部文化財学科・教授 吉川敏子 共著、岩波書店 2023年11月刊行
- ◆ **越前・若狭 武将たちの戦国**
 文学部史学科・教授 外岡慎一郎 編著、岩田書院 2023年11月刊行

- ◆ **法隆寺と聖徳太子 一四〇〇年の史実と信仰**
 名誉教授 東野治之 著、岩波書店 2023年11月刊行

奈良大学のInstagram開設しました

先生方からも投稿いただいて、授業風景や学生生活の様子を掲載しています。
 ぜひフォローやいいねをお願いいたします。



附属高等学校

第2学年 語学研修旅行 in オーストラリア

今年度、コロナ禍により2019年度の実施を最後に中断していたオーストラリア語学研修旅行が再開されました。今回の行き先、標準コースは「ケアンズ」、文理コースは「メルボルン」、特進コースは「キャンベラ・シドニー」で、各コースの出発時期をずらして実施しています。

10月末に出発した特進コースでは、日頃から親交のあるキャンベラの2校の学校と交流を深め、「キャンベラ奈良平和公園」での「キャンベラ奈良・キャンドルフェスティバル」のステージで三味線の演奏や剣道の演武、ダンスを披露しました。

11月中旬に出発した標準コースでは、学校交流はもちろん世界遺産の熱帯雨林が広がるキュランダでアボリジニ文化の体験や班別研修などを行いました。2月中旬には、文理コースがメルボルンへ出発する予定です。

参加した生徒たちにとっては、学校交流や市内での班別研修をとおして日頃の英語学習の成果を試すと共に、異なる文化や環境の中での立ち振る舞いを学び、自国の文化や自分自身を改めて見つめ直す良い機会となったようです。



附属幼稚園

運動会

10月8日、奈良大学のグラウンドをお借りして運動会を開催することができました。本番に向けてたくさんの練習を重ねてきた子どもたち。年長組は鼓隊演奏と組立体操、リレー、年中組はバラバルーン、年少組はリズムなどを披露しました。

お客さんの前で演技をすることはきっとドキドキしたはずですが、みんな一生懸命演技を披露することができました。天気の影響で出来なかった演技もあり残念でしたが、保護者の方から「かっこよかったよ」「頑張ったね」と言ってもらえ、自信にあふれ、嬉しそうなお顔が印象的でした。

運動会で頑張った子どもたちはひとまわり大きく成長したように感じています。

